

ASA:write standbyコマンドを使用する時期と理由

内容

概要

[コマンド write standby はいつ発行する必要がありますか、またこのコマンドを使用するとどのような問題が発生するかのうせいがありますか。](#)

関連情報

概要

このドキュメントでは、write standby コマンドを使用すべき状況と、このコマンドの効果について説明します。

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

Q. write standbyコマンドはいつ発行すればよいのですか。また、このコマンドを使用すると、どのような問題が発生する可能性がありますか。

A. write standbyコマンドを入力する必要はほとんどありません。このコマンドを使用すると、何が起きるかをより良く理解するために役立つ情報を次に示します。

write standby コマンドを入力すると、ピアスタンバイファイアウォールの設定がクリアされます。このコマンドは、実際には clear config all コマンドを発行します。これにより、アクセスコントロールリスト (ACL)、インターフェイスなどに含まれるスタンバイの設定が消去され、その完全な設定がアクティブピアから再同期されます。また、設定が消去される間、スタンバイファイアウォールに対するすべての管理セッションがクリアされます。これは、インターフェイスが再初期化されることが原因です。スタンバイCPUの負荷は、設定の再構築と再同期後に適応型セキュリティアプライアンス (ASA) で ACL データ構造を再コンパイルする必要があるため増加する可能性があります。

注：このコマンドは、スタンバイ側のファイアウォールでwrite memoryコマンドを実際には発行しません。スタンバイファイアウォールの設定は、write standby の ASA コマンドリファレンスに記載されているように設定の同期後にフラッシュメモリに書き込まれません。スタンバイファイアウォールの設定を保存するには、アクティブなファイアウォールから write memory コマンドを入力します。write standby の詳細については、『[Cisco ASA シリーズ コマンドリファレンス、8.4、8.5、8.6 および 8.7](#)』を参照してください。

通常、write standby を発行する必要があるのは、スタンバイファイアウォールの動作設定がアクティブなファイアウォールの設定と一致しないことを確認した場合のみです。設定が同期していないことを確認する必要があります。両方のユニットで show run コマンドを入力し、結果を比較します。唯一の違いは、プライマリとセカンダリを示す failover lan unit コマンドだけであるはずですが。

関連情報

- [Cisco ASA シリーズ コマンド リファレンス、8.4、8.5、8.6 および 8.7](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)